

Clinical features of squamous cell lung cancer with anaplastic lymphoma kinase (ALK)-rearrangement: a retrospective analysis and review

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2021-03-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 渡邊, 純子 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2002601

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2332 号

Clinical features of squamous cell lung cancer with anaplastic lymphoma kinase (ALK)-rearrangement: a retrospective analysis and review

ALK 融合遺伝子陽性肺扁平上皮癌の臨床的特徴に関する後方視的研究

渡邊 純子 (わたなべ じゅんこ)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、ALK 融合遺伝子陽性肺扁平上皮癌の臨床的特徴と治療経過中の ALK 阻害剤に対する獲得耐性機序を明らかにした臨床的に意義のある論文である。

ALK 融合遺伝子陽性肺扁平上皮癌は腺癌と比較して稀であり、予後不良とされている。本論文でも、ALK 融合遺伝子陽性肺扁平上皮癌は肺扁平上皮癌の 1.36% と非常に稀であり、腺癌と比較して初回 ALK 阻害剤治療の無増悪生存期間が有意に短いという結果であった。また、ALK 融合遺伝子陽性肺腺癌と同様に、ALK-FISH(+)/ALK-IHC (-) の場合には ALK 阻害剤が無効という結果であった。さらに、本論文では ALK 融合遺伝子陽性肺扁平上皮癌症例の再生検検体を用いて ALK 阻害剤に対する獲得耐性機序の解析を行っており、ALK 阻害剤奏効例では ALK 融合遺伝子 2 次変異に有効であるセリチニブを選択したことで治療予後を改善できた。

これらの結果より、ALK 陽性肺扁平上皮癌の臨床的特徴や獲得耐性機序を明らかにし、肺扁平上皮癌における ALK 融合遺伝子同定の必要性や、ALK 阻害剤耐性時の再生検による耐性機序解明の重要性を示した有用な論文である。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。